

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	9	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 ⇒ご家族からの要望等を十分に聴き取れていない	利用者さま、ご家族の意見や要望をお聴きする機会を定期的につくり、GH運営会議、GH職場会議でその情報共有と対応策などを協議して、ホームの運営に反映させていく。	利用者さまについては、居住環境、食事やおやつなどの満足度をお聴きする。また、個別ケアに活かそうなご要望をお聞きして、プランや担当者の援助活動に反映させる。ご家族については、日々のLINEや「お便り」でのコミュニケーションを密に行うとともに、家族会等の行事を企画していく。	12ヶ月
2	11	就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 ⇒代表者は職場環境について、各自が向上心もてるような取組みを十分に行えていない。	個々の職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境の整備を行う。	年間2回、9月～10月、2月～3月に職員面談を定期的に行う。(従来は3月年1回だった) また、日々のコミュニケーションにおいても、どのような事業所にしていきたいのか、将来に向けたビジョンや目標を伝えるようにする。	12ヶ月
3	25	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている ⇒災害時の避難について全職員まへの周知や、地域との協力体制をつくるまでには至っていない	全職員が利用者さまの避難方法を身につけることができるようホーム内での模擬訓練を定期的に行う。(年2回) 自治会、消防団との連携を強化する。	9月と2月に防災訓練を行うとともに、GH職場会議においても、避難方法の研修を定期的に行う。事業所で作成したBCPに自治会、消防団との連携の項目を織り込めるよう、協議を進める。	12ヶ月
4	4	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している ⇒日常生活自立支援事業については、十分な理解の促進や活用ができていない。	グループホームとして日常生活自立支援事業がどのように活用できるのか、GH運営会議等で協議し、活用を促進する。	利用者さま個々にニーズを把握し、その中でできる事業、サービスを活用する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。